

入院患者で転倒・転落の結果、骨折または頭蓋内出血が発生した件数

分子 発生件数

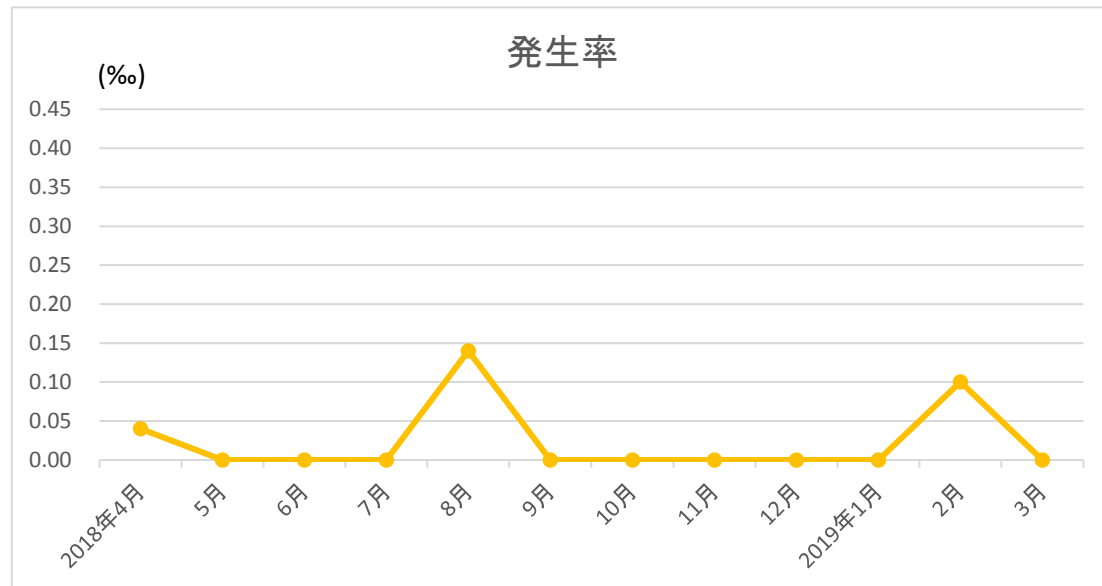
分母 計測期間における延入院患者数

※分母設定は「高齢者(75歳以上)の退院患者数」、
分子設定は「分母のうち入院中に大腿骨骨折が発生した患者数」としている病院もあります。
(国立病院機構臨床評価指標)

年月	2018年4月	2018年5月	2018年6月	2018年7月	2018年8月	2018年9月	2018年10月	2018年11月	2018年12月	2019年1月	2019年2月	2019年3月	年間
分子	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	6
分母	22236	22490	22740	22060	21889	20061	21982	21648	21337	20165	20205	22369	259182
発生率(‰)	0.04	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.02
転倒転落報告件数	47	41	39	36	60	31	51	29	33	29	37	35	468

・計算式 パーミル(‰)

入院患者1000人あたり何人 転倒・転落の結果、骨折または頭蓋内出血しているかを表している 分子/分母*1000



《解説》

転倒・転落により骨折等の外傷が発生した場合、患者さんの生活の質(QOL)の低下や回復の遅延を招き、また入院期間の延長により医療費の増大させる等、様々な弊害をもたらします。しかし、予防に全力を尽くしても予防が困難な場合もあります。このため、予防対策に加え、転倒・転落が発生しても大きな障害をもたらさない対策を講じていくことも重要となります。